



# 消化器内科

企画：田中信治

(日本消化器内視鏡学会理事長，JA 尾道総合病院病院長，  
広島大学名誉教授)

近年の内視鏡機器や技術の進歩はめざましく，拡大内視鏡観察は顕微内視鏡観察まで発展し，内視鏡的病理組織診断が可能な時代に突入している．そして，さまざまな画像強調観察技術が臨床導入され，従来認識できなかった病変の発見，質的診断が可能になっている．また，スコープやカプセル内視鏡の進歩もめざましく，以前は暗黒大陸とよばれていた小腸も含めて，現在は咽頭食道から肛門までの全消化管の詳細な内視鏡観察が可能になっている．CAD/AI の進歩にも目を見張るものがある．

内視鏡治療の進歩もめざましく，すでに消化管 ESD はほぼ一般化し，壁の薄い十二指腸の内視鏡治療も積極的に行われている．さらに，ESD の次のステップとしての消化管全層切除や縫縮法も発展しつつある．また，癌の内視鏡治療適応や根治判定基準も拡大されつつある．機器やデバイスの進歩によって，胆膵領域の内視鏡診断と治療もめざましい発展を遂げてきた．

本章では，この道のトップリーダーの先生方に，これらの内視鏡診断・治療の進歩と今後の展望についておまとめいただいた．ぜひ本章で最先端の知識を得ていただければ幸いである．